

領域 7-2 人生最終段階のケア



Gone From My Sight: The Dying Experience” (1986年)
Barbara Karnes

看取りのパンフレット

すべての人は死を迎えようとするとき、自分自身の独自性を保ちながら、最後の経験をしていきます。このパンフレットは、ガイドラインや地図を示しているにすぎません。どのような地図でも、同じ目的地に至るには多くの道があり、同じ町にたどりつくには多くの方法があります。

非常に個人差があり、断定できることは何もないということを心にとめながら、このパンフレットを使用してください。このパンフレットにある兆候のすべてがみられたり、一部がみられたり、全然みられなかったりするかもしれません。また、兆候によっては死の数カ月前にみられるものから、数分前にみられるものまであります。

死はしかるべきときに、しかるべき方法で訪れてきます。死を迎えようとしている人にとって、死にかたは一人ひとり異なるのです。



死を迎える時の兆候

【死の3カ月から1カ月前の兆候】

周囲のことに関心がなくなる
眠っている時間が長くなっていく
会話が少なくなる
食事量が減る

【死の2週間から1週間前の兆候】

失見当識、混乱する
すでに亡くなった人と話をする
(幻視、幻覚、幻聴等)
寝具を引っ張る、服を脱ぐ(暑がる)
興奮する
血圧が下がる
手足が冷たくなり、時々発熱がある
汗を多くかく
息づかいが不規則になる(無呼吸等)
痰が増える
眠っているが、呼びかけに反応する
からだのだるさを訴え、じっとしてられなくなる
食事をせず、水分をわずかにとるのみとなる

【死の数日から数時間前の兆候】

元気が出てくる「仲良し時間」「仲直りの時間」
じっとしてられない状態になったり、
まったく動かなくなったりする
息づかいが不規則になり、無呼吸が多くなる
のどの奥からぜろぜろした音が聞こえる(喘鳴)
目がとろんとしたり、半開きの状態になったり、
涙が出たりする
手、足、ひざが紫色になり、斑点がみられる
脈が弱くなり、触れにくくなる
尿や大便を漏らす
尿が減少する
お別れを言う
許しを乞う

【死の数分前の兆候】

まったく反応がなくなる
あえぎ呼吸となる
呼吸が止まる



医師の立ち居振る舞いガイドブック

① 患家・病室へ向かう前

身だしなみ、環境を整える、
病歴の確認、スタッフからの聞き取り

② 死亡確認時

環境の整備、挨拶、態度、診察、言葉の選択

③ 死亡確認後

遺族とのお話のポイント3点

- 患者さんの辛さに関すること
- 患者さんへの尊敬の気持ち
- 家族へのねぎらい



地域の多職種で作る「死亡診断時の医師の立ち居振る舞いについてのガイドブック」えんじえる班 勇美記念財団助成事業 2014



Ⅱ 死亡診断の具体的なプロセス

※厚生労働省「死亡診断書(死体検案書)記入マニュアル」最新版に目を通しておく。

① 家族から呼吸停止の連絡

- 1) 自分の所属と名前を伝える
- 2) 急な容態変化でないことを確認
- 3) 蘇生術の希望がないか確認
- 4) 訪問看護師等へ連絡したか確認
- 5) 到着予定時刻を伝える

② ご自宅へ向かう前

- 1) カルテを確認する
- 2) 直前の状況を看護師に確認する
- 3) 身だしなみを整える



③ 到着してから

- 1) 所属と名前を名乗る
- 2) 落ち着いた雰囲気をつくる

④ 死亡診断時

- 1) 環境を整える
 - テレビがついていたら消してもらおう
- 2) 挨拶・態度
 - 本人と家族へ会釈をし、生きている人と同じように接する
 - 事務的に見えないように配慮する
- 3) 診察
 - 聴診器(心停止・呼吸停止)、ペンライト(瞳孔散大・対光反射の消失)を用い、一連の動作を家族に説明しながら行う
 - 診察後に衣服や布団を整える
- 4) 死亡宣告
 - 患者の死亡を家族に確実に伝える
「息を引き取られました」「ご臨終です」
「旅立たれました」等
 - ※ 家族と共に死亡診断をした時間を死亡診断書の「死亡したとき」として構わない。

⑤ 死亡診断後

- 1) タイミングをみはからう
 - 家族が落ち着くまでの時間を設ける

2) 経過・死因の説明を行う

- 主治医から患者の容態をよく聞いていたことを伝える

3) 家族が話しやすい雰囲気をつくる

4) 家族とお話をする

- 患者のつらさに関すること
例「穏やかなお顔ですね」
- 患者への尊敬の気持ちを表現する
例「よくがんばりましたね。主治医からも伺っております。」
- 家族へのねぎらい
例「なかなかできることではありません」
※ 傾聴のなかで、家族から話が出てくるとよりよい
※ 慎重に使いたい言葉
「苦しまなくてよかったですね」
「年齢に悔いはないですね」「大往生でしたね」

5) 死亡診断書は丁寧な字で記入する

6) 患者さんについているルート・器具類を取り外す(ペースメーカーは取り外し不要)

7) チームメンバーへの配慮

- 主治医へ
家族の言葉をカルテに残す
- 看護師、薬剤師へ
互いをねぎらう
家族の言葉を伝える
家族に各事業所へ連絡をするよう伝える
- その他の職種へ
ケアマネジャーやヘルパーが第一発見者であった場合、精神的苦痛を感じている場合があるので、その場にいれば医師からねぎらいの言葉を伝える

エンゼルケアの実際

- ①家族の意思確認、最期まで家族の想いに寄り添いながらケアをする
- ②家族へエンゼルケアの手順と準備する物品の確認
- ③洗髪、頭皮のマッサージ
- ④顔の各部位の保清
- ⑤顔全体の保清とマッサージ
- ⑥口腔内の清掃
- ⑦身体の清拭（排泄物の処理なども含む）
- ⑧更衣
- ⑨目と口の補正
- ⑩ヘアメイク

角田直枝：癒しのエンゼルケア，中央法規，2010

